



公立大学法人  
福岡女子大学  
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

## 2026年度 公開講座・特別講座シリーズ

# 「時代で見るイギリス文学作品と作者」

どんな文学作品も、さまざまな要素が絡み合って誕生する。たとえば、読者の好み、前・同時代の作品、時代思潮、社会の動向などが影響を与えることがある。このようなエッセンスを切り口として眺めると、物語を単体で楽しむのとはひと味違う面白みを味わうことができる。その一例として本講座では、英文学作品をいくつか取り上げ、「作者」と彼らが生きた「時代」という観点から作品解説を試みる。文学好きいかににかかわらず、普段とはひと味異なる読書の視点に触れていただきたい。

※単独回受講も可能です

### 講座番号 A 文学作品における作者とは？

10月2日(金)

14:00~15:30

現代の「著作権」で保護される作者の権利は、文学史の初めから保障されていたわけではない。本講座では、作者と作品を解説する続く講座の導入として、口承文化、写本文化、刊本文化の変遷のなかで、作品の作り手としての作者の立場や権利が発展してきた様子を概観する。

言語教育センター 講師 都地 沙央里

### 講座番号 B トリスタンとイゾルデ物語の変奏

10月9日(金)

14:00~15:30

中世ヨーロッパの悲恋物語の代表とされる作者不詳の『トリスタンとイゾルデ』は、ブリテン島のケルトの逸話が始まりである。この物語がドイツやフランスに伝播し、新たな展開をみるが、再びイングランドに舞い戻り『アーサー王物語』の中に取り込まれる。さらに、中世作品が復活を見た19世紀ビクトリア時代には、著者名明記の上で、当時の社会（そして女子大学）が関心を寄せる話が接ぎ木される。それはいかなる内容であったのか？

福岡女子大学 学長 向井 剛

### 講座番号 C 初期近代英国の出版事情について

10月16日(金)

14:00~15:30

16世紀のイングランドを代表する詩人貴族サー・フィリップ・シドニー作『アーケイディア』の成立と出版過程をたどり、当時の出版文化、ジャンル意識、そして作者の社会的身分が作品の受容と流通にいかなる影響を及ぼしたのかを、同時代を代表する劇作家・詩人のシェイクスピアやスペンサーとの比較を通じて明らかにしていきたい。

熊本県立大学 名誉教授 村里 好俊

### 講座番号 D 『貴公子ハロルドの巡礼』での作者と読者の綱引き

10月23日(金)

14:00~15:30

読書の主体は読者にある。しかし、自由な読書は作者にどのような影響をあたえるだろうか。印刷物になった文字は、より多くの読者と多様な解釈を生み出し、作者へと戻ってくる。本講座では、バイロンの『貴公子ハロルドの巡礼』を通して、執筆と刊行を重ねるなかで生じた、作者と読者の綱引きの様相を紐解くとともに、近代的作者像の成立を考える。

津山工業高等専門学校 准教授 山口 裕美

### 講座番号 E 男の仮面をつけた女性作家

10月30日(金)

14:00~15:30

19世紀イギリスにおいて、後世に名を残した女性作家はメアリー・シェリー、ブロンテ姉妹、ジェイン・オースティンなど、ごく少数に限られる。女性の能力が軽視される中、彼女たちはいかにして文壇に登場したのだろうか。ジョージ・エリオット(1819-1880)に注目して、家庭環境、筆名の由来と騒動、出版業界の流行、ビジネス戦術などを探していきたい。

北九州市立大学 准教授 濱 奈々恵

受講料：各回 1,000 円（税込） ※高校生は無料

会場：福岡女子大学 地域連携センター 2階 セミナー室 2

—お申し込み方法や連絡先についての詳細は裏面をご覧ください—